

「三上」のことは、以前この校長室だよりに書いた。文章を考えるために適した三上、すなわち3つの場所のことである。中国の政治家であり学者である欧陽脩が友人に語り『帰田録』に書いた言葉とされる。

三上とは、馬上・枕上（ちんじょう）・厠上（しじょう）のことである。馬上だが、現代では馬とはいかない。そこで、私の場合は、これを車を運転しているときに置き換えている。枕上は、字の如く枕元である。そして、厠上はトイレである。

私には、この三上が当てはまる。アイデアが出てきたり、仕事のことを思い出したり、文章が出てきたりするのが運転中である。これから眠ろうとするときと朝、起きようとするタイミングも多い。トイレに入っているときもある。以前は、それぞれの場所にメモ帳を置いておいたこともあったが、今は忘れないうちに、スマホにメモするようにしている。

コロナ禍の影響もあってか、三上にもう一つプラスされた。「一泉」である。泉とは温泉のことである。遠出をしないので、近場の日帰り温泉に行くことがある。ゆっくりと黙浴をしたいのだが、次から次へと考えや文章、やるべきことが浮かんできてしまう。それこそ泉の如くである。そうしたいわけではない。本当はゆったりとしたいのである。

仕方なく、忘れないうちにスマホに打ち込む。こんな生活は嫌なのだが、自分を制御できない。どうやらリラックスすればするほど、考えや文章が出てくるようである。そこで、考えた。趣味があればどうであろう。趣味のことをずっと考えるかもしれない。だが、如何せん、その趣味がない。

今日は4月1日である。新年度の初日である。令和4年度が始まった。これからも、趣味が見つかるまでは、三上十一泉が私の思考を支える場所となるであろう。本当は、思考の作戦本部である校長室ですべて解決できればいいのだが、どうもそうはいかない。

今までも何度か、この校長室だよりの原稿を下書きとしてスマホに打ち込んだことがあった。今年度は、それが増えそうである。絞り出した文章よりも、湧き出てきた文章の方が質も担保されるように思う。ということは、週末の日帰り温泉が一番よいということになる。

今年度も、「校長室だより～燦燦～」は、毎週月曜日から木曜日の朝に野田中学校のホームページにアップする。紙媒体での配布はしない。金曜日の朝は、「校長通信～夢拓く～」をアップする。こちらは、生徒と先生方に紙媒体でも配布する。金曜日の朝は、「職員室だより『切磋琢磨』」も出している。これは紙媒体で先生方に配布し、アップはしていない。

昨年度と同様の取組になる。内容としては、コロナに関わるものがなくなっていくことを期待したいが、そうもいかないだろう。コロナ禍にあってもやれること、やるべきことを考えていきたい。